

ヨハネ 13・黙想質問

ヨハネ 13:1-12 イエス様は、あなたの足を洗っていますか。

¹過越の祭りの前に、イエスは、いよいよこの世を去って父のもとに帰る最後の時が来たことを知り、弟子たちに対する愛を余すところなく示されました。²夕食の間のことです。悪魔はすでに、シモンの子イスカリオテのユダに、「今夜こそ、かねてからの計画を実行に移す絶好の時だ」という思いを吹き込んでいました。³イエスは、父がすべてのものを与えてくださったことと、自分が神のもとから来て、また神のもとに帰ろうとしていることを知り、⁴夕食の席からゆっくり立ち上がり、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰に巻かれました。⁵そしてたらいに水を入れ、弟子たち一人一人の足を洗い、腰の手ぬぐいでふき始められたのです。

イエスさまは、弟子の足を洗うことで何を教えようとしていたのでしょうか。

⁶シモン・ペテロの番になりました。ペテロは言いました。「主よ。足を洗っていただくなど、もったいなくてとてもできません。」⁷イエスは言われました。「なぜこんなことをするのか、今はわからないでしょう。だが、あとでわかるようになります。」⁸「いいえ。どうかもう、おやめください」とペテロは言いはります。「もしわたしが足を洗わなければ、あなたはわたしの仲間にはなれません」とイエスは答えられました。⁹するとペテロはあわてて、「そ、それなら、足だけとおっしゃらず、手も、それに頭も洗ってください」と言いました。

¹⁰「水浴した者は、足だけ洗えば全身がきよくなります。今あなたがたはきよいのですが、みながみな、きよいというわけではありません。」¹¹イエスはだれが裏切り者かわかっていたので、「みながみな、きよいわけではない」と言われたのです。

ペテロは、後で人の足を洗うことについて何を学んだのでしょうか。

イエス様は、弟子の足を喜んで洗うへりくだった僕（しもべ）でした。あなたも、同じように他の人の足を洗う心の準備ができていますか。具体的にどうすればいいのでしょうか。

毎日の生活で、どのようにあなたの足は汚れますか。あなたは、イエス様に自分の足を洗っていただくことができますか。他の人にあなたの足を洗ってもらうことも大丈夫ですか。

ヨハネ 13:12-17

誰の足を洗っていますか。誰があなたの足を洗っていますか。

¹² イエスは弟子たちの足を洗い終わると、また上着を着て席に戻り、改めてお尋ねになりました。「わたしのしたことがわかりますか。 ¹³ あなたがたはわたしを『先生』とも『主』とも呼んでいます。それはかまいません。そのとおりなのですから。 ¹⁴ その、主でも先生でもあるわたしが足を洗ってあげたのですから、あなたがたも互いに足を洗い合いなさい。 ¹⁵ わたしは模範を示したのです。わたしがしたとおりに、あなたがたもしなさい。

お互いに足を洗い合うということは、具体的にどんなことでしょうか。

¹⁶ 使用人はその主人にまさらず、遣わした人より使者のほうがまさるということもありません。 ¹⁷ このことがわかったら、すぐ実行しなさい。そうすれば祝福されるのです。

イエス様のように他の人を愛して仕える者になったら、どのように祝福されるでしょうか。

このイエス様のヨハネ 13 章での模範と教えは、あなたがキリストの弟子であることと、キリストの弟子を作ることに對して、どんな風にあなたの理解を変えましたか。

あなたは誰の足を洗っていますか。誰があなたの足を洗ってくれていますか。

¹⁸あなたがた全員にこう言っているのではありません。あなたがたを選んだのは、このわたしです。ですから、一人一人がどんな人間かよく知っています。聖書には、『わたしと食事を共にしている者が、わたしを裏切る』（詩篇 41・9）とはっきり書いてあるでしょう。いいですか。まもなく、そのとおりのことが起こるのです。¹⁹今そのことを話しておきましょう。その時になって、あなたがたがわたしを信じられるように。²⁰よく言っておきます。わたしが遣わす者を心から受け入れる人はだれでも、わたしを受け入れるのです。そして、わたしを心から受け入れることは、わたしをお遣わしになった父を受け入れることなのです。」

イエスは、18-20 節でこれから起こることが全部予言されていると言いました。このことは、イエスこそが、神様が約束して下さったメシヤであると弟子が信じるのにどのように役だったのでしょうか。

²¹ここでイエスは、込み上げる霊の悲しみを抑え、言われました。「あなたがたに言います。あなたがたのうちの一人が、わたしを裏切ります。」²²弟子たちは、だれのことを言われたのか見当もつきません。困惑して顔を見合わせるばかりです。²³イエスに愛された弟子の私（筆者の使徒ヨハネ）は、食卓では先生の隣に座っていました。

²⁴シモン・ペテロが私に、「そんな恐ろしいことをしでかすのは、いったいだれか聞いてくれ」と合図を送ってきました。²⁵そこで私は先生に、「主よ。だれがそんなことを？」と尋ねました。²⁶「わたしの手でスープに浸したパンを与える者がそうです。」こう言うと、イエスはパンを浸し、イスカリオテのシモンの子ユダに与えられたのです。

²⁷ユダがそのパンを口に入れたその時、サタンがユダの心に入り込みました。そこでイエスはユダに、「さあ、急いで、することをしなさい」と言われました。²⁸食卓に着いているほかの者はみな、それが何のことやらわかりません。²⁹ユダが一行の会計係だったので、祭りに必要なものを買求めるように言われたか、貧しい人々に施しをするように言われたのだろう、と思った者もいました。³⁰ユダはぱっと席を立つと、夜の闇に飛び出して行きました。

なぜイエスがユダにパンを渡した時に、サタンがユダに入ったのでしょうか。

³¹ユダが姿を消すとすぐ、イエスが言われました。「時が来ました。神の栄光がわたしの回りに輝き渡るのも、時間の問題です。同時にまた、わたしの身に起こるすべてのことのゆえに、神も大いにほめたたえられるでしょう。³²神はわたしに、ご自分の栄光を与えてくださるのです。それも、すぐにです。

イエスがこれから自分は栄光を受け、神様も自分を通して栄光を受けるとどういう意味で言ったのでしょうか。

³³心から愛してやまない子どもたちよ。ああ、もう時間がありません。あなたがたを残して行かなければならないのです……。その時には、いくらわたしを捜しても、わたしのところへ来ることはできません。ユダヤ人の指導者たちにも言っておいたとおりです。³⁴そこで今、新しい戒めを与えましょう。わたしがあなたがたを愛するように、互いに愛し合いなさい。³⁵互いに心から愛し合うなら、わたしの弟子であることをすべての人が認めるのです。」

イエスが与えて下さった戒めは、どうして「新しい戒め」なのでしょう。

イエス様は、どのように私たちが愛したのでしょうか。

私たちの周りの人々は、私たちが互いに愛し合っている様子を見て、私たちがキリストの弟子であることを認めるでしょうか。この質問はなぜ大事なのでしょう。

³⁶さっそく、シモン・ペテロが尋ねました。「主よ。いったいどこへいらっしゃるのですか?」「あなたは、今はついて来ることはできません。しかし、ずっとあとになってついて来ます。」³⁷ペテロは言いました。「でも、どうしてですか。どうして今はだめなのですか。あなたのためなら死ぬ覚悟もできています。」³⁸「わたしのために死ぬ、と言うのですか。いや違います。あなたは、明日の朝、鶏が鳴く前に、三度わたしを知らないと言います。」

イエスは、ペテロが3回も自分を「知らない」と言うのが分かっていたのに、それでも愛していました。イエス様は、私たちが失敗することが分かっているのに、同じように愛していると思いますか。そのことを考えて短い祈りを書いて下さい。